



2022年11月7日

各位

会社名 スターツコーポレーション株式会社

代表者名 代表取締役社長 磯崎 一雄

(コード番号: 8850 東証プライム市場)

問合せ先 取締役 村松 久行

(TEL 03-6202-0111)

**2023年3月期第2四半期累計期間の連結業績予想と実績値との差異及び
通期連結業績予想の修正、並びに剰余金の配当及び配当予想の修正に関するお知らせ**

2022年8月8日に公表いたしました2023年3月期第2四半期累計期間の連結業績予想と本日公表の実績値に差異が生じたので、下記の通りお知らせいたします。また、2023年3月期通期連結業績予想並びに配当予想を下記の通り修正いたしましたので併せてお知らせいたします。

記

1. 2023年3月期第2四半期（累計）連結業績予想数値と実績値との差異
（2022年4月1日～2022年9月30日）

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	97,000	10,500	10,700	7,200	144.98
今回実績値 (B)	98,598	11,864	14,241	9,586	193.03
増減額 (B-A)	1,598	1,364	3,541	2,386	
増減率 (%)	1.6	13.0	33.1	33.1	
(ご参考) 前期第2四半期実績 (2022年3月期第2四半期)	90,927	10,166	10,664	7,153	139.94

2. 2023年3月期通期連結業績予想数値の修正
（2022年4月1日～2023年3月31日）

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	214,000	24,800	25,000	16,800	338.29
今回修正発表予想 (B)	232,000	27,000	29,000	19,300	388.62
増減額 (B-A)	18,000	2,200	4,000	2,500	
増減率 (%)	8.4	8.9	16.0	14.9	
(ご参考) 前期実績 (2022年3月期)	196,578	24,182	25,789	16,772	332.83

3. 剰余金の配当（中間配当）及び配当予想の修正

当社は、2022年11月7日開催の取締役会におきまして2022年9月30日を基準日とする剰余金の配当（中間配当）及び2023年3月期の期末配当予想を修正することを決議いたしました。

(1) 剰余金の配当（中間配当）の内容

	決定額	直近の配当予想 (2022年8月8日公表)	前期実績 (2022年3月期中間配当)
基準日	2022年9月30日	同左	2020年9月30日
1株当たり配当金	43円00銭	40円00銭	33円00銭
配当金の総額	2,187百万円	-	1,678百万円
効力発生日	2022年12月1日	-	2021年12月1日
配当原資	利益剰余金	-	利益剰余金

(2) 期末配当予想

基準日	1株当たり配当金（円）		
	第2四半期末	期末	合計
前回予想	40円00銭	40円00銭	80円00銭
今回予想		43円00銭	86円00銭
当期実績	43円00銭		
前期実績 (2022年3月期)	33円00銭	40円00銭	73円00銭

4. 差異及び修正の理由

(1) 第2四半期累計期間の連結業績と実績に差異が生じた理由

当第2四半期累計期間におきましては、出版事業におきましては、『鬼の花嫁』シリーズを中心に書籍や電子書籍の販売が好調に推移し、ホテル・レジヤ事業におきましては、まん延防止等重点措置の解除による行動制限緩和により需要回復の兆しが見られましたことにより、当初予想以上の業績となりました。また、その他各事業におきましても、概ね予定どおり進捗いたしました。さらに、米ドル為替相場につきましては2022年3月期末に比べて円安となりましたことから、為替差益を計上いたしました結果、前回発表の予想値を上回る結果となりました。

(2) 通期連結業績予想の修正の理由

通期連結業績予想につきましては、分譲不動産事業におきまして、スタートプロシード投資法人への物件譲渡により売上高、営業利益が当初予想を上回る見通しとなりました。また、ホテル・レジヤ事業におきましては引き続き需要の回復基調が継続する見通しであります。さらに、経常利益、当期純利益につきましても米ドル為替相場が2022年3月期末に比べて円安となる見通しとし、2023年3月期通期連結業績予想を上記のとおり修正いたします。

(3) 配当予想

当社の配当政策につきましては、将来の事業展開や財務体質強化のための内部留保の充実に努めるとともに、安定的な配当を継続していく方針であります。

第2四半期累計期間におきまして、上記の通り連結業績が予想を上回る結果となりました。併せて通期連結業績予想も上記の通り修正いたしましたことから、中間配当及び期末配当予想をそれぞれ1株あたり40円から3円増額し43円とすることといたしました。これにより当期の年間配当金は1株当たり86円となる見込みであります。

以上